

**八戸市
幼保小連携推進事業**

八戸市教育委員会

幼保小連携推進事業

◆ 趣 旨

市内全域の幼稚園・保育所(園)・認定こども園・小学校の教職員が、子どもの発達や互いの教育内容についての連携を深め、互いに理解し尊重し合って、幼児児童の学びの連続性を図る。

◇ 主な取組

- ・入学予定幼児保護者向けパンフレット「わくわくいっぱいいちねんせい」の配布
- ・幼保小連携研修講座の開催
- ・幼保小連携担当者連絡協議会
- ・地区会及びオープンスクール
- ・代表者会議（5月、2月）

◇ 他にも・・・

- ・相互参観の推奨
- ・教科等研究「幼保こ小連携」部会
- ・総合教育センター研修講座の
幼児教育施設への開放

幼保小連携推進事業全体計画

～学びの連続性を見通した幼保小連携を目指して～

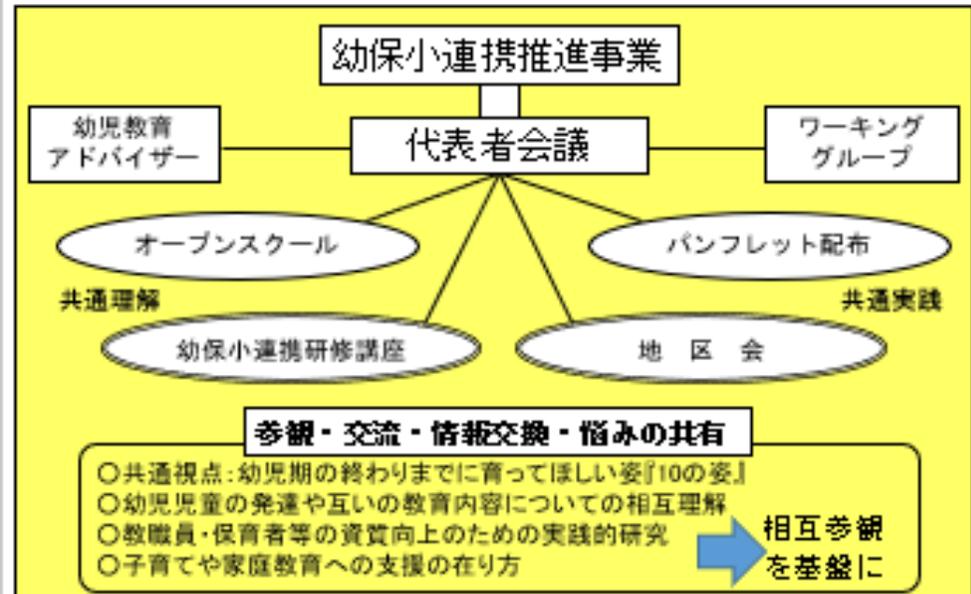
【連携の3つの柱】

安心

主体性

つながり

- ・環境を通して行われる一人一人を大切にした幼児期の教育での学びを生き、0からのスタートではなく、安心して学んだことを発揮できる小学校教育の充実を図る。
- ・主体的な遊びで育まれた10の姿を、1年生の教育全体で発展させていく。
- ・幼児児童の関わり、教職員・保育者等の関わりを大切にして、学びの連続性を見通した連携を図る。



八戸市幼保小連携推進事業

代表者会議

幼稚園長、保育園長、認定こども園長、小学校長、保護者の各代表者、八戸学院大学短期大学部教授 1 名、関係機関、教育委員会で事業の検討を行う。

- 年間 2 回実施
 - ◆第一回（5月ごろ）
内容：連携事業について
研修講座について
 - ◆第二回（2月ごろ）
内容：連携事業振り返り
次年度の事業について



保護者向けパンフレット

来年度小学校へ入学する幼児の保護者へ、小学校をイメージし期待感や安心感をもって入学を迎えられるようパンフレットを配布する。

- 7月ごろ：市内全幼児教育施設
（0～2歳児保育施設を除く）
八戸市立全小学校へ配布
- 10月ごろ：八戸市立全小学校へ配布
（就学時健診に、
家庭保育の保護者へ配布するため）

※入学予定幼児保護者向けパンフレット
「わくわくいっぱい いちねんせい」はこちら



八戸市幼保小連携推進事業

幼保小連携研修講座

外部講師による講演と参加者同士による情報交換を通じて幼児教育と学校教育の相互理解を促進させ、教職員の資質の向上を図る。

○期日：令和5年8月29日（火）

○場所：八戸市総合教育センター

◆全体会（講演）

- ・講師：八戸学院大学短期大学部 幼児保育学科 教授 差波 直樹 氏
- ・演題：『遊びや生活を通じた「幼児期の学び」を共有する』

◆分科会（グループ）「幼稚園・保育園・認定こども園・小学校の教職員による話し合い」

- ・内容：学習・保育の様子が分かる写真を用いた、互いの教育・保育の共有



全体会



分科会

八戸市幼保小連携推進事業

地区会

幼児児童に関する情報共有・情報交換や教職員による交流により、幼児児童の円滑な接続を図る。

◆情報交換

・授業・保育を参観し、具体的な姿を基に情報交換する学校・園が増えてきている。

◆相互参観



教職員同士の交流

オープンスクール

幼児・保護者が、入学前に入学予定小学校の教育活動を見学できる機会として設定し、入学への不安軽減を図るとともに小1プロブレムの解消に寄与する。

◆取組例

- ・園児による学校施設や授業等の見学
- ・学校行事、園行事への参加
- ・行事以外の交流活動の設定
- ・個別の学校見学対応



幼児児童の交流

八戸市幼保小連携推進事業

教科等研究委員

「幼保こ小連携」部会において、幼児教育と小学校教育の円滑な接続に関する研究を行う。（2年計画2年次）

- 研究員：桔梗野小学校低学年担任
連携園：こもれびのもり幼稚園
桔梗野保育園
- ◆研究テーマ
「幼児教育と小学校教育の円滑な接続
に向けた架け橋期のプログラム研究」
- ◆主な取組：連携園との相互参観
教職員同士の定期的な交流
連携園とのカリキュラム共有
- ◆成果と課題
 - ・相互参観、交流など教職員の定期的な交流による、幼児児童の育ちの共有。
 - ・桔梗野地区「幼保小の架け橋プログラム」の作成。
 - ・交流設定の時間的課題
 - ・「幼保小の架け橋プログラム」の効果的活用

幼保小連携担当者連絡協議会

小学校連携担当者の理解を深め、幼保ことの円滑な接続に向けた取組の在り方について共通理解し、架け橋の教育の充実を図る。

- 期日：5月ごろ
- 方法：オンライン開催
- 内容：幼児教育の基本について
「架け橋プログラム」について
教科等研究委員研究成果の共有



幼保小連携会議

八戸市幼保小連携推進事業

令和5年度成果と課題

◆成果

- ・「小1ギャップ」解消に向けて、価値ある取組がなされている。特に、相互参観などにより、保育や授業の様子を生で複数の目で見合うことで、互いのよさ・特徴を掴むことができるようになった。
- ・教職員同士の話し合いによる方針等の共有は、就学に向けた取組等を交換し、一貫性のある支援につながり大きな成果であった。
- ・幼保こ小が、互いに理解しようとする姿勢や取組が良い方向に変化してきていると感じる。
- ・教職員にとっては、それぞれの方針や立場を理解することができ、幼児児童にとっては、年下の子を思いやる気持ちや小学校への希望がもてる。

◆課題

- ・幼保こで育てた力を生かしてスムーズな接続を図るために、まずは学区の幼保こ小での相互参観や交流活動、情報交換等の連携により、双方の指導の様子をより理解し、子どものよりよい育ちを保証する取組を計画していく必要がある。
- ・学区内、それ以外にも入学予定幼児の在籍園は多数ある。幼保こ小それぞれの方針はあるが、学区内外のどの園とでも連携や共通理解が容易にできるような体制ができていけばと思う。
- ・情報交換・共有、参観、交流全てにおいて小学校・幼保こ共に教職員の業務的・時間的な負担が大きくなっている。そこをサポートできる体制を整えることで、余裕をもった取組ができる。

◆今後の方向性

- ・相互参観の実施
- ・教科等研究委員に代わる新たな支援校の取組